

温暖化対策、待ったなし！

即効性のある方法としては、「地球冷却」が切り札！

次のページの新聞記事は、世間の大勢が「二酸化炭素（炭酸ガス）削減で大騒ぎになりかけていた頃」に産経新聞のアピール欄に採用していただけて、全国に報道されたものですが、当時は“異端視”される感じをもっていたものですから、あまり PR する気にならなかったのですが、ここ二年ほど温暖化の影響が強く出て来る様を見ていて、積極的に「こんな方法がありますよ」と提案していこうと思い出しました。

記事の原稿には、微粒子の大きさを 0.1 ミクロンと、うっかり書いてしまったのですが、「光りの散乱」は、波長程度の物質で効果が高いので、ここは 1 ミクロンが正当です。そして、何を撒くかの具体的物質ですが、最も安価にするとすれば「泥か砂の微粒子」と言うことになるでしょう。粉末を作る技術としては、日本の「ホソカワミクロン」社の名前がすぐ浮かびます。実は、記事が掲載されたしばらく後に、ホソカワミクロンの粉体技術研究所に電話して、「1 ミクロンなら、今すぐにでも可能です」というご回答を得ています。数ヶ月前の報道では、「何と、硫黄の粉末を大量に撒く」というアイデアが紹介されていましたが、方法は同じですが、イオウでは公害問題が起きますし、費用が掛かりすぎて大変でしょう。環境庁の研究所にもコピーを送りましたが、本気にしてくれるのかどうか。

短大教授

日下和信 55

(大阪府北区)

うだるような暑さが続く。都会ではエアコンなしでは過

ごしづらい。どうやら地球温暖化の影響が出てきたのかもしれない

なエネルギーを受けて、そのほとんどすべてを宇宙に捨てている。この熱の収支バランスが取れていると、地球全体の平均気温に変化が起きないことになる。

今、騒がれている温暖化問題の核心は、太陽エネルギーに加えて、人間が文明生活を

「炭酸ガスの排出規制強化」が問題になっている。

本論の提案というのは、「一万呎上空に〇〇一羽程度の微粒子を飛行機から広範囲にまき散らし、太陽光線を一部さえぎって、地球に届く熱

エネルギーを減らして、気温を下げてしまおう」というの

量の黒煙が上空を覆い、三年程度地球が寒冷化した」ことがあった。

太陽光線を高空で散乱させる研究を進め、計画的に実行するのがよいのではないかと考えられる。幸い、ジャンボ機は高空を毎日数千便飛行しているというから、光を散乱させるための自然に

温暖化対策として「地球冷却技術」を

い。

そこで、温暖化対策

として、あまり議論されないけれど、確かな方法として存在する「地球冷却技術」の本格研究を提案したい。

地球は毎日、太陽から膨大

送るうえで新たに排出する熱

エネルギーの増大と、炭酸ガス濃度の上昇による熱の閉じ込め効果(温室効果)が相乗して生む「気温の上昇」にある。

この対策として、前者は「省エネ」であり、後者は

である。

この考えは、気象関係者の間では既によく知られている。火山の大噴火から数年は冷害に見舞われる」という経験的事実に立脚している。近いところでは、噴火ではないが「湾岸戦争で油田が燃え、大

発するだけで実用になる技術なのである。

困難の多い炭酸ガス削減を待つよりも、コスト的にも、効果の確かさからも、この「地球冷却技術」の確立に一歩踏み出すべきではないだろうか。

2011.8.14 サンケイ